

講義コード	1116020002
講義名称	経済学A 02<春>
科目英文名	Economics A
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	ECON1000
単位数	2.0
時間割	春学期: 火曜日 4 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
田代 昌孝

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--------------------------------------------

講義・演習概要	経済のグローバル化が進むことで、財やサービスの流れが活発になり、市場が非常に複雑になってきた。それに伴う形で、経済不況による失業や物価の変動など様々な問題が家計や政府の行動に影響を与えている。財政健全化や社会保障財源の確保等、世の中にある様々な問題に対して、政府が対応しきれなくなってきた。この講義ではミクロ経済学的な観点から、今日議論されている様々な経済現象がなぜ生じているのかを学ぶ。
学習（到達）目標	この講義に積極的に参加することを通じて ①ミクロ経済学で必要とされる基本的な数学的知識を身に付けることができる。 ②ミクロ経済学の基礎理論を使い、特定の市場の動向を説明する能力を得ることができる。 ③ミクロ経済学の理論を深く学ぶための基礎能力を得ることができる。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス ミクロ経済学とはどのような学問であるのか。 成績評価について。 レジュメやテキストについての説明。 講義を受けるうえでの注意事項。
第2回	ミクロ経済学の学びについて（イントロダクション）
第3回	消費者行動①（予算線と最適消費）
第4回	消費者行動②（需要曲線の考え方）
第5回	消費者行動③（需要曲線の変化）
第6回	生産者行動①（生産関数について）
第7回	生産者行動②（供給曲線の考え方）
第8回	生産者行動③（供給曲線の変化）
第9回	市場メカニズム（市場均衡とその変化）
第10回	課税と超過負担①（個別消費税）
第11回	課税と超過負担②（輸入関税）
第12回	課税と超過負担③（課税の効率性と公平性）
第13回	ゲーム理論①（ナッシュ均衡）
第14回	ゲーム理論②（チキンゲームや独裁者ゲーム）
第15回	ゲーム理論③（マッチング理論やケーキ分け問題）

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	70%
その他	30%

成績評価の方法（コメント）	<b>【成績評価について】</b> M-Portによる授業内の課題提出が30%、学期末に出されるレポート課題が70%。 レポートは設問を5問出題したうえで、全問正解をSとし、それ以降、1問不正解するごとに成績評価をワンランク下げる。
---------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	田代昌孝	レクチャー&エクササイズ ミクロ経済学	大学オンライン 販売		新世社	

参考文献	西村和雄著『ミクロ経済学 第2版』岩波書店、2001年（ISBN4000266942）
事前および事後学習の指示	講義テーマに該当する教科書の部分を熟読するようにして下さい。 前回講義の復習を必ず行ってから、講義を受けるようにして下さい。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間

講義コード	1531320000
講義名称	社会病理学[2] <春>
科目英文名	Social Pathology
開講責任部署	社会学部 社会学科
代表ナンバリングコード	0SOC1440
単位数	2.0
時間割	春学期: 火曜日 4 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
平野 孝典

授業形態	講義	アクティブラーニング	グループワーク
------	----	------------	---------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	コメントシート	ディスカッション(話し合い)	協同・協調学習(グループ・ワーク、チームワーク、ペアワーク)

講義・演習概要	<p>本講義では、「社会病理」とされる現象が生じる原因と、社会病理現象が問題視される社会的な背景について解説します。</p> <p>第1部（犯罪と非行）では、代表的な社会病理現象である犯罪・非行を取り上げ、その社会的要因について講義します。</p> <p>続く第2部（「社会病理」の変容）では、デュルケームの犯罪論などを取り上げ、社会病理とされる現象が時代によって変化すること、さらに問題視のされ方にも時代の特徴があらわれることを説明します。</p>
学習（到達）目標	<p>講義の学習目標は次の2点です。</p> <p>(1) 具体的な犯罪・非行事件を1つ取り上げ、その事件を犯罪社会学理論にもとづいて説明できるようになること。</p> <p>(2) 具体的な社会病理現象を1つ取り上げ、その現象が社会病理とされた社会的な背景を説明できるようになること。</p>

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	「社会病理」を問う2つの視点
第2回	犯罪と非行（1）学習理論
第3回	犯罪と非行（2）緊張理論
第4回	犯罪と非行（3）コントロール理論
第5回	犯罪と非行（4）社会解体論と環境犯罪学
第6回	犯罪と非行（5）犯罪統計の読み方
第7回	犯罪と非行（6）暗数問題
第8回	第1部まとめ
第9回	「社会病理」の変容（1）デュルケームの犯罪論
第10回	「社会病理」の変容（2）ラベリング論
第11回	「社会病理」の変容（3）社会問題の構築主義
第12回	「社会病理」の変容（4）子どもの自殺
第13回	「社会病理」の変容（5）児童虐待
第14回	「社会病理」の変容（6）美容整形
第15回	第2部まとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	0%
その他	0%

成績評価の方法（コメント）	<p>試験（100%）：学期中に中間試験（50%）・期末試験（50%）を各1回、対面で実施します。  このほか、授業理解度の確認のため、授業中にミニクイズやコメントシートの提出を求めます。  これらは成績評価には含めませんが、自身の理解度を把握する機会として活用してください。</p>
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考文献	<p>松下武志・米川茂信・宝月誠編、『社会病理学講座1 社会病理学の基礎理論』学文社、2004年  岡邊健編、『犯罪・非行の社会学——常識をとらえなおす視座 [増訂版]』、有斐閣、2020年  友枝敏雄・樋口耕一・平野孝典編、『いまを生きるための社会学』、丸善、2021年  このほか、授業中に適宜紹介する。</p>
事前および事後学習の指示	<p>業で紹介された現象以外にも「社会病理」とされる現象はたくさんあります。  それが何か、考えておいてください。</p>
学習時間	<p>事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間</p>

講義コード	14D5010000
講義名称	地域経済論Ⅰ <春>
科目英文名	Regional Economics Ⅰ
開講責任部署	経済学部 経済学科
代表ナンバリングコード	ECON2570
単位数	2.0
時間割	春学期: 火曜日 4 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
角谷 嘉則

授業形態	講義	アクティブラーニング	プレゼンテーション
	グループワーク	パソコン実習	

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)	ディスカッション(話し合い)

講義・演習概要	<p>本講義は地域経済の動態を把握するだけでなく、地域社会の問題を解決していくことも想定している。地域経済の主体は、地域で働き、生活する上で、地域の問題に向き合わざるをえないからである。講義は、地域経済の理論、地域問題の把握の仕方、地域開発の政策などについて、日本全国の地域のケースを用いて進める。</p>
学習(到達)目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域経済の課題や問題を理解する</li> <li>・地域経済の構成と動態を理解する</li> <li>・地域問題を解決するための思想と手法を獲得する</li> </ul>

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	<p>イントロダクション</p> <p>★本講義は、事前学習としてオンデマンド資料で自習し、事後学習としてM-Port上で課題をおこなってまいります。</p> <p>★本講義の対面授業の内容は、基本的にグループワークで課題の背景や解決策の検討をおこないます。</p> <p>★また、対面授業の後半にプレゼンテーションしてまいりますので、必ずパソコンを持参して下さい。</p>
第2回	地域問題と地域政策
第3回	地域経済への接近方法
第4回	地域経済から見た歴史①(第2次大戦前の日本経済と地域)
第5回	地域経済から見た歴史②(第2次大戦後の日本経済と地域)
第6回	地域経済から見た歴史③(国土計画と全国総合開発計画)
第7回	地域経済から見た歴史④(都市と農山漁村の変貌)
第8回	地域経済と地域政策①(地域政策とリゾート法)
第9回	地域経済と地域政策②(国際化時代と地域政策)
第10回	地域経済と地域政策③(自治と新しい公共)
第11回	地域政策の未来を読む①(まち・ひと・しごと創生法と地方創生)
第12回	地域政策の未来を読む②(地方創生と観光)
第13回	地域政策の未来を読む③(人口減少と地方消滅)
第14回	地域政策の未来を読む④(震災復興とエネルギー)
第15回	まとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	
その他	100%

成績評価の方法（コメント）	講義内容についてM-Port上で実施する小テスト（10回程度）で評価する。 また、対面授業ではグループワークやプレゼンテーションの内容で加点する。
---------------	------------------------------------------------------------------------------

## テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	岡田知弘	地域づくりの経済学入門	大学オンライン販売	4880377112	自治体研究社	
2.	岡田知弘, 川瀬光義, 鈴木誠, 富樫幸一	国際化時代の地域経済学	大学オンライン販売	4641220751	有斐閣	

参考文献	授業内で紹介する。
事前および事後学習の指示	テキストを購入する必要はないが、事前に読んでおくことが望ましい。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間

講義コード	14D6310000
講義名称	中国経済論Ⅰ <春>
科目英文名	Chinese Economy Ⅰ
開講責任部署	経済学部 経済学科
代表ナンバリングコード	ECON2700
単位数	2.0
時間割	春学期: 火曜日 4 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
大島 一二

授業形態	講義	プレゼンテーション
------	----	-----------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	--------------------------------------------	----------------------

講義・演習概要	<p>改革・開放政策実施以降の30余年で中国の経済は大きく発展した。国内総生産の実質成長率は年率10%に達し、日本経済の高度経済成長期に匹敵する水準である。これにより2010年には世界第2位のGDP大国となった。また外貨準備高はすでに世界第1位の水準にある。この結果、多くの日本企業が中国に参入している。</p> <p>しかし、国内には解決しなければならない課題も山積している。例えば、三農問題といわれる農業・農村の停滞、1.5億人ともいわれる大規模な労働力流動と都市・農村社会の急激な変容、国際的問題ともなった食品安全問題、深刻な環境問題など数多い。</p> <p>本講義では、中国経済の成長過程を明らかにし、高度成長が実現した背景、直面している主な問題、今後の課題について解説する。また、台湾、香港、マカオ等の地域の経済についても解説する。テキストのほかに、中国経済の動きに関する新聞報道なども紹介し、NHKなどが制作したドキュメンタリーを放映するなどして、わかりやすい授業に心掛ける。</p> <p>この中国経済論Ⅰでは、1949年の新中国建国から現在に至る中国経済の展開と、香港、台湾、マカオの経済について取り扱う。</p>
学習（到達）目標	日本と中国の経済的な繋がりはますます深まっているが、現代の中国・香港・台湾・マカオの経済はどのように形成されてきたのか、またその課題は何かについて体系的、客観的に理解できるようになる。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション。授業の進め方、講義内容の概要などについて説明する。
第2回	近現代から現在に至る中国、台湾、香港、マカオの展開
第3回	社会主義計画経済体制の形成と課題。
第4回	計画経済期の中国経済。人民公社、国営企業、戸籍制度を中心に。
第5回	改革開放期の高度成長
第6回	南巡講話と外資導入の促進。
第7回	所有制改革と社会主義市場経済。
第8回	WTO加盟と国際化。
第9回	世界の工場から世界の市場へ。
第10回	台湾の経済（1）台湾の歴史と社会
第11回	台湾の経済（2）台湾経済の発展と開発モデル
第12回	台湾の経済（3）ファブレス、ファウンドリ関係と台湾経済
第13回	香港の経済
第14回	マカオの経済

第15回	まとめ
------	-----

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	50%
その他	50%

成績評価の方法（コメント）	対面授業を想定し、以下のように配点する。 M-Portによるレポート（必修、1回、50点）、課題（5回各10点、50点）を基本とする。 さらに講義への出席を促進するため、出席点30点（15回各2点）を加点する。 合計130点となるが、評価は他の講義と同様に以下の基準である。 59点以下D、60～69点C、70～79点B、80～89点A、90点～130点S。
---------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考文献	大島一二編著（2007）『中国野菜と日本の食卓 - 産地、流通、食の安全・安心』芦書房。 大島一二（2015）『日系食品産業における中国内販戦略の転換（日本農業市場学会研究叢書）』筑波書房。 大島一二・山田七絵（2019）『朝日緑源、10年の軌跡』農林統計出版。
事前および事後学習の指示	テキストは特に指定しないが、必要に応じて資料を配布する。また、できるだけ参考文献を読んでおくこと。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	中国・台湾・香港・マカオ経済、中国農業・農村

講義コード	15E1710000
講義名称	地域福祉論 A <春>
科目英文名	Community Social Work A
開講責任部署	社会学部 ソーシャルデザイン学科
代表ナンバリングコード	SOCW2460
単位数	2.0
時間割	春学期: 火曜日 4 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
小野 達也

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--------------------------------------------

講義・演習概要	地域福祉論 A は、地域福祉の歴史や現状を踏まえて、その必要性や概念、考え方を理解させることが教育の目的である。 [授業全体の内容の概要] 現代社会において地域福祉がなぜ重視されてきているかを社会・歴史的動向と同時に、地域福祉の理論に沿いながら考察する。また、地域福祉を追求するための枠組み、すなわち地域福祉の構成としては何が必要なのかを住民主体の視点に即して明らかにする。
学習（到達）目標	[授業修了時の達成課題（到達目標）] 地域福祉の基本的な考え方、必要性、構成、地域福祉の考え方の広がりについて理解し、説明できるようになることを目指す。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	1 地域福祉の基本的な考え方
第2回	2 地域福祉の歴史的動向
第3回	3 現代社会での生活と課題
第4回	4 地域での生活問題に対する社会福祉
第5回	5 地域福祉の必要性
第6回	6 地域福祉援助の原則
第7回	7 地域福祉の構成要素
第8回	8 地域でのケアサービス
第9回	9 地域でのケアの現代的動向
第10回	10 地域社会と組織化活動
第11回	11 組織化活動の現代的動向
第12回	12 地域福祉の歴史と展開（1）
第13回	13 地域福祉の歴史と展開（2）
第14回	14 これからの地域福祉のあり方
第15回	15 地域福祉論 A の振り返りとまとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
----	----

レポート	50%
その他	50%

成績評価の方法（コメント）	①最終レポートを実施する。地域福祉論Aの全体にかかわるテーマとなる。地域福祉の基本的な考え方を確認する。 ②毎回、講義にもとづく提出物（小レポート）を求める。その他の点数に反映される。
---------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------

事前および事後学習の指示	<ul style="list-style-type: none"><li>・講義内容について事前に提示する資料内容を確認しておくこと。</li><li>・講義で分からなかった点を事後学習すること。</li></ul>
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間